
光～貴方とのメモリー～

悠菊

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

光と貴方とのメモリー

【コード】

N3380G

【作者名】

悠菊

【あらすじ】

主人公が死後の世界にいるところから始まります。天国の世界の話、転生後の話、などと繋げていく予定です。

第1話 印

私が目覚めたとき、辺りは真つ暗だった。

「・・・夏輝なつきっ！夏輝い・・・っ！！」

暗闇の中に響き渡る声。

誰の声か、と考える間も無くすぐに分かった。

貴方の声だった。

大好きで、愛しい貴方の声だった。

でも、貴方は声はとても悲痛で、辛そうな声だった。

聞いているこっちも、涙が出てきて。

私は泣いた。

大好きな声。

だけど、今はその声を聞くのが悲しい。

ねえ、お願いだから。。。

あの、優しい声で私を呼んで・・・。

泣いているうちに、自分に何があったのか、思い出してきた。

私は貴方と旅行の約束をした。

でも私は寝坊をしてしまったんだ。

起きて時計を見て、やばいって思ったの、覚えてる。

私は急いで荷物を持って、貴方のところへ走った。

走って、走って、貴方の姿を見たとき、すごい愛しさと嬉しさがあ

った。

私の視界には貴方しかなくて、信号が赤ということも目に無かった。貴方は私の姿を見て笑い、そして叫んだ。

「夏輝っ!!」

貴方しかなかった視界。

その世界に車のクラクションが鳴り響いた。

記憶はココまでしかなかった。

でもしつかり、起きたことを理解した私。

「飛び出し・・・、余所よそみ見ってコトになるのかな・・・？」
全身の力が抜けた。

「子供じゃん・・・。私・・・っ!!」

涙がぼろぼろと零こぼれた。

もう涙が止まらなくて。

頭の中は“後悔”と“寂しさ”で埋め尽くされていた。

もう、貴方に会えない・・・？

そう思ったら、とてつもない不安が迫ってきて。

私は貴方のもとへと戻りたくて、辺りを一生懸命走りまくった。
でも貴方の姿は全然見えなくて。

私は叫んだ。

「京けい！・・・っ!!」

私の声は、貴方の耳に届く前に暗闇に飲み込まれてしまった。

「……っ。」

もう、寂しくて。

どうしようもなくて。

「京い……っ。」

私はその場に泣き崩れた。

私の頭の中では、貴方との思い出がくるくると回っていた。

一緒に歩いた、夕焼けのオレンジに染まった道。

「人間ってさ、死んじゃえば楽だとか思ってるけど違うよなー……」

急に口にした言葉。

私は驚いて、貴方に聞いた。

「急にどうしたの？」

貴方は私の方を見ながら言った。

「ん？だつてさ、死んでから人を恨む奴とかいるじゃん？人を不幸にして何がいいのかねー……。それなら、早く天国行ってさ、大好きな人の隣に今度こそ居たいよなっ！」

そう言ったときの貴方の笑顔は、太陽よりも何よりも眩しくて。

その笑顔だけは絶対に失ってほしくないなって思ったんだ……。

今、貴方のその笑顔を失わせているのは私。

「っ……。」

私は涙を拭くと、立ち上がった。

貴方が大好きだから。

貴方が何よりも大切だから。

この精一杯の気持ちを貴方の笑顔に捧げたいから。

「京ーっ!!」

貴方に届くかは分からないけど。

「大好きだよー・・・っ!!」

貴方へのこの想いを伝えなきゃって思ったから。

途端に、視界が真っ白に覆われて。

目を開けた先には貴方の泣き顔があったんだ。

「夏輝・・・っ!!」

貴方の目から零れる涙が私の頬を濡らしていた。

「京・・・。」

一言喋るだけでもスキッツと激しい痛みに襲われた。

「笑・・・って?」

私がそう言つと、貴方の涙が一瞬止まった。

「笑い・・・続けてて、ね?」

泣いていたため赤くなった目を細め、貴方は笑ってくれた。

「大好き・・・。ずっと、ずう・・・つと・・・。」

「俺だつて・・・っ!!」

貴方がすぐにそう言つてくれたのがすごく嬉しかった。

意識が朦朧としてきて、目に貴方の姿を焼き付けておくんだ、そう

思った。

「ありがとう……。」

この一言に、全ての意味の“ありがとう”を込めて。

一言を言い終えると、私の意識はまた暗闇へと戻された。

「がんばれ、京……。」

また溢れてきそうになった涙を私はすぐに拭った。

さつきとは違い、暗闇の中に小さな光を見つけた。

私はその光へと歩みだした。

私は思いついた。

私の胸には、星型のような痣がある。

私は、何かは物はないかと自分の身に付けている物を見た。

ふと、目に止まったのは、貴方から貰ったストーンのついたキーホルダー。

私は自分の胸の痣の周りを切った。

切ったところは痛い、コレできっと貴方に会ったときの印になる。

私は再び歩き出した。

いつの間にか光はもう目の前にあった。

私は光の中に入る前に、叫んだ。

「京一、ありがとうっ！！」

届いたかな？と思いつつも私は前に振り戻った。

貴方の記憶と共に、私は光の中へと入っていった

。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3380g/>

光～貴方とのメモリー～

2010年11月11日20時19分発行